

〔出席委員〕 小谷次雄、西坂千代子、西田里沙、福田美紀、藤原彰二
山岡重隆、村岡亜樹、新川裕二、永田彰寿、山下千之

(敬称略)

1 開会	
司会	(開会の宣言)
開会挨拶	
会長	あいさつ
司会	資料確認
2 事務局より	
事務局	資料説明 (1) 平成26年度倉吉市教育委員会の重点施策の実績及び評価(案)について (2) 倉吉市立小・中学校の適正配置について (3) 倉吉市立小・中学校「土曜授業」について
3 協議	
会長	(1)平成26年度倉吉市教育委員会の重点施策の実績及び評価の説明に対して、広く全体で何かお気づきの点や質問等がありましたらどうぞ。
委員	赤ちゃんふれあい会の場所や時間・活動内容を具体的に教えていただきたいと思えます。
会長	市の子育て支援センターと最寄りの児童館・児童センターが関わっていています。赤ちゃん親子には子育て支援センターから声を掛けてもらい、場所については各小学校・児童館・児童センターなどに出かけて行って、子どもたちの間に入りアドバイス等しながら、1時間ほどふれあいをしています。小学校で2回、西中では3年生の秋に各クラス1回ずつふれあっています。学年はだいたい小学校5・6年生、中学校2・3年生が活動に参加していると思えます。
会長	実際にふれあい会を行われた学校があれば、その感想などを。
委員	小鴨小学校でもふれあい会をさせていただいております。本当に子どもたちが変わってくるんですね。少子化の中で、自分たちよりも小さい子どもを見ることが無く、ましてや肌の触れ合いなど体験したこともないのですが、関わり方が分からない状態でも、笑顔で対応してくれる赤ちゃんもいて、子どもたちにとっていい影響を与える機会だと思っています。
委員	お母さんの方にもいい影響を与えているようです。自分の子どもが可愛がってもらえて、お母さんの気持ちも癒やされる。ただ赤ちゃんを集める方が大変。親子のご好意なので、お願いして了承してもらわなければならない。
会長	その他質問等ありますか。評価にBが多いと報告がありました。
事務局	Bは本当は目標達成率90%以上なんです。
委員	感想ですけども、色々な施策をされ、非常に手厚い状況で子どもたちに教育をして頂いていると思えます。しかし、頑張らなければならないのは、保護者いかに力を付けていくかです。それを日々考えながら地域・施設の人間として学校に関わっています。教育を考える会にも、本当に出てきて考えてほしい保護者の参加が少なく、次世代育成という部分でどう力を付けていくのかが大きな課題です。自治公民館活動を含めて、地域の次世代の担い手を育てていくことにてこ入れができない状況を痛感しています。「自分たちが元気なうちに次の世代に伝えたい」という想いも含めて、もう少し工夫する必要があると思えます。また今後、小学校の再編や統合などが出てくると、より一層保護者の力が良い意味で活用され、どんどん参画してもらえようような仕組みになっていけば良いと思えます。統合をきっかけにしたいとの思いがあります。
会長	それは「学校教育」と「社会教育」の両方が協力していかなければならないと思われま。評価については、個人的には、今年一所懸命努力して本当に良かったのであればAをつければ良いと思う。遠慮することはない。その代わり課題があった場合は、はっきり対処すべきではないか。自己評価となるとAを付けにく

	いという気持ちはわかるが、頑張った具体的なものがあればつけばいいのではないですか。
委員	土曜授業について、初年度だったため難しい面もあったかと思われませんが、学校と地域関係者が年間の取組・計画等についての話し合いを、もう少し丁寧にしなければならなかったと感じました。先生から丸投げされたと思われた方もあったようで、行き違いもあったのではないかと考えています。自分自身は教職員の負担は減らしたいと思っているため、もう少し地域が主導権を握り、「ふるさと」に残っている技術や知恵などを次の世代に引き継げるようにしていきたいと思っています。まだそのような取組はできておらず、また、今自分が住んでいる地域について保護者が理解していない部分もあり、子どもだけではなく保護者も一緒に体験してもらう必要があるのではないかと思います。
会長	土曜授業については後で話しましょう。続いて、適正配置についてですが、取組は進んでいると捉えるべきかと思っています。統合の組み合わせが変わったり、具体的に取組が始まったりしているところもあるようです。何か質問・意見はありませんか。統合に向けて合意を得られた山守と関金は、今後進めていくんですね。
教育長	もちろん反対の御意見もあるとは思いますが、P T A役員や地域の自治公民館にも相談したところ、進んでいこうかとなったため、方向性としては適正ではないかと思っております。
会長	この2校の統合は、倉吉市の1つのモデルになるわけですから。
教育長	2月3日の関金・山守の統合準備委員会にマスコミも2社来ておりました。「互いの地域代表の話し合いの中で、統合する2校で少人数である山守の意見を大事にしたいという声が聞こえ、譲り合いの雰囲気があり非常によかった。」と読売新聞にも書いてありました。委員長を決めるまでは重苦しい空気があったが、委員長が決まってからは前向きな良い話し合いが進んでいきました。
会長	他の地域は徐々にですね。
委員	社は全自治公で話していたと聞きましたが。
事務局	自治公民館長会では、社地区にある全自治公民館の館長が参加され、話をさせていただきました。
教育長	社は横田・秋喜・東中学校区側と、地域によってニュアンスが微妙に違うと感じました。横田地区の人は、高城小・北谷小の統合案が進むと、横田はまた裂きになってしまうと心配していました。社小も含めて3校が統合するのは良い案だという声も聞こえました。東中に近い地域の人は「中学校はどうなるのか、全員久米中に行くことになる」と困ると心配されており、秋喜の方は「西中が目の前なのに」と思っておられます。進学する中学校については、今までの長い議論の中で現在に至っているため、分かれるのはやむを得ないという認識をしております。それを無理に1つの中学校へ進学させるとなると、かえって難しい面があるのではと思いました。
会長	北谷や高城は社と統合することに賛成しているのですか。
委員	住民には統合に関する話が全く下りてきていません。むしろ話をすると、集中攻撃を受けるから地域には下ろさないのではないかという印象を受けます。社の話に関して、自分の集めた情報によると「今の社小に北谷小・高城小が来るのであれば入れてやる。そうでなければ社小は統合しない。」と考えている社地区住民が大半を占めており、その意見が強いようだと思っています。高城・北谷に関しても、今のままでは情報が下りてこないため、特に高城では自分たちで団体を作り、「北谷と高城が統合しても10年後には同じ問題が起こり、久米中がその影響を受ける。10年後や中学校の再編を踏まえた統合をするべきではないか。『今は小学校を統合し、10年後にまた考えれば良いのではないか』というのは無駄なことではないか。大規模に変革するのであれば一度にしまえばよいのではないか、そういった動きを起こそうではないか。」という意見を出している人もあります。小P連の4地区合同勉強会の開催日時と話し合った内容も自

	分は報告を受けていたが、それをいつ地元話すのか聞くと、地元には出さないとされた。協議会長からも出さないとされ、PTAも自治公も「自分たちがすべき話ではないだろう。」と主張し、結局どちらも『知らない』となってしまった。先日耳にしたのは、北谷では公民館が主導を取り青少協主催で、地区で説明会を行うとのこと。結局どこかの組織が窓口になり、話し合いの場を作らなければ話が進まないという状況が地元で起こっています。だから地元住民も8割近くが、進捗状況を全く知らないのが現状です。
教育長	北谷の方には2月26日に説明に行きます。高城では自治公民館長会にて説明をさせていただきました。しかし、その後の動きはありません。一部のところでは反対だと言われているところもあるが、その動きには賛同しないと言う人もおり、淡々と行政サイドで進めてくれというニュアンスを受け取ったところもあります。これが社のように、PTAで話し合った内容を地域住民と共有されれば、次の動きが出せるが、現時点では高城は難しいなという印象を受けています。
委員	結局、主導を取る人がいない状況です。現在、公民館も慌ただしくしており、協議会も会長が変わり主導がとれる状態ではない。このままズルズルと引き延ばしてしまうのかという見方をしています。
教育長	一つ状況として市教委で説明できるのは、文科省から出た適正配置の手引を手掛かりに、「文科省の手引と倉吉の今まで進めてきた適正配置は内容的にはほぼ同じであり、議題に挙がってから3年経過した。関金・山守も動いているしこちらも動いてはどうでしょうか。」といった進め方もできるのではないかと思います。
会長	小規模校として残す案、特認校について説明をしていただけますでしょうか。
事務局	鳥取市を例に挙げると、実施校は8校です。人数が少ない学校から移ることは出来ませんが、一定人数以上の学校から周辺部の人数の少ない学校へ、行きたい人があれば受け入れる制度です。全国的に見ても小規模特認校に取り組んでいるところは多くありますが、都心部の大規模校から周辺の小さな学校に行くという状況であれば想定されます。しかし、倉吉の14小学校の中で、「この学校は大自然があつていいな」ということで行く人が果たしているのだろうかという疑問があります。全市として何か特色を考えたときに、例えば英語教育をどこかの学校だけ重点的にするというのをすれば児童は集まるかもしれない。しかし、それでは市の教育として公平性に欠けます。また、人間関係等、大きな学校で少し行きづらいという児童を、小規模校で受け入れるという例も実際にあるため、保護者が望まれるということであれば学校とも相談して、今の校区外就学制度でも対応させて頂けます。実際対応している例もあります。小規模特認校制度が果たして倉吉で馴染むのかという疑問があります。
会長	特認校は小規模校のメリットを活かした内容ということです。適正配置についてお気づきの点があれば出してもらったら。
教育長	特認校については実際、鳥取市の今年度の利用者は30人で、そのうちの半数は小中一貫校の湖南学園です。そういう特徴のある学校については希望者が多い。しかし、それ以外の学校では数人しか来ていない状況を考えると、小規模転入制度を倉吉市がやった場合、学校教育審議会が定めた「1学級20人規模で学級運営をしていきたい」という課題をクリアできるのだろうか。難しい面がありはしないだろうか。全国で特認校が有効だという論文がないか探したところ、234校を調査した修士論文がありました。そこには何らかの特色を出し、行政がある程度の人的・資金的な援助をしている場合には成功している例がありました。宇都宮にある小学校で英語を集中的に学習している学校は成功しているようです。ただ、3年後には学習指導要領が変わり、どの学校も小学校3年生から英語教育を取り入れることになるため、特徴としては成り立たないだろう。自然があり地域の繋がりがあることにしても、倉吉14小学校どこを取ってもそれらはあるので、わざわざそこを選ぶ児童はいるのでしょうか。校区外就学制度もあ

	<p>り、適応できない子どもへの支援も現状の制度でもできるので、あえて市の施策として取り上げていくのかどうか。教育委員会でも議論しましたが、そこまで踏み切る必要はないのではないかと委員からの意見もありました。「教育審議会でも議論してもらわなくては」ということで今回お聞きしております。</p>
委員	<p>成功している学校は、都会から田舎の学校に憧れて来ることがあるのかと思うが、同じ田舎の学校でそこまではしなくても、今の配慮している制度があるため、十分ではないかという気はします。</p>
会長	<p>例外的に「ここは残す」という結論は出さないのか。例えば、「灘手は残す」「強い要望があったら残す」など。</p>
教育長	<p>学校教育審議会で答申を出した訳ですので、行政としてはそれに向かって粛々と遂行していくことが、自分たちの仕事だと思っています。</p>
委員	<p>市の施策として、県外あるいは市外から人口を呼び込むような取り組みをされて、青少年育成や生涯学習なども工夫し、都会から来た人に臨海学校や林間学校などで経験・体験を積んでもらい、「倉吉って良いところだな」と思って住んでもらうのが一番良いですが。現状の人口では、再編の問題がここまで来ているのだから、進めていく方向で考えていくべきではないですか。</p>
会長	<p>倉吉市内での移動で、ある学校は減った、ある学校は増えたと言っているといけなと思うんですが。</p>
教育長	<p>文科省の手引をまとめられた室長に、直接電話をし、お会いして説明を受けました。全国様々な地域があるため、どこからでも、どれをとってもいいようになっていると言われました。最終的には市町村の判断ですと。手引の中に、学校統合を選択しない場合、次のような場合があると紹介しています。</p> <p>①離島や山間部・豪雪地帯など学校が遠すぎる、通学が難しい場合。しかし、灘手や上小鴨にしても、20分あれば通学できるので、これは当てはまらない。</p> <p>②学校統合を行った後に、さらなる少子化の進展やその他の理由でさらに児童が減ってしまう、統合しても意味がない場合。これは1つ考えられる要素。関金・山守も20年30年後に再度統合することになると、今度はかなり距離が遠くなってしまいます。そういった場合にはこれは考えられる。</p> <p>③同一町内に1校ずつしか小・中学校がない場合。これは倉吉市の場合には当てはまらない。</p> <p>④「学校を当該地区のコミュニティの存続や発展の中核的な施設と位置付け」この文を如何に解釈するか。もし、小学校が無かったとしても、地区公民館がコミュニティの存続や中核的な役割を果たしている。</p> <p>①～④番を考えたときに、倉吉の場合はどうかと思います。</p> <p>手引の中に、1学級の適正人数が明示されていないかと期待していたが、載っていなかった。しかし、この手引がつくられた基礎データの中から一部抜粋させていただきました。倉吉がなぜ1学級20人という数字を定めたかの根拠に近いものが、「市町村独自で定めた学級の基準」をまとめたデータにありました。学級の適正人数についても、学校教育審議会の中で他の市町村の例を聞きつつ、何人がいいか議論を積み重ねてきました。子どもたちが5人で1グループを作ったとして、2つくらいグループもあった方がいい。男女別々にグループを作るため男女合わせて20人。『20』というのは根拠がある1つの選択肢ではないかと思っています。</p> <p>小規模のメリットデメリット、それらを克服する方法というものが書いてあるが、その施策を敢えてするのかなあと。小規模特認校を導入している学校は県で12%だが、していない学校は88%ある。「それをして効果も期待できない」と判断したことによる結果かもしれない。学年を合わせて合同体育などの教科をやっているが、それならば統合し、同学年で授業をする方が意味はあるのではないかと思います。</p>
会長	<p>この資料を持ち帰り読んでみると面白いことが色々わかるかもしれない。この</p>

	手引は良くできている。最後は自分の都合の良いように受け取る可能性がある資料です。適正配置もそれぞれ事情や問題はありますが、焦らずに各地域の説得を市教委に進めてもらいたいと思います。あとは、下まで情報が下りにくいことにも十分配慮されて。
教育長	市教委もどこでも説明に出掛けるつもりでいます。何度も市教委が押し掛けてくることを、地域の方が失礼だと思われるかもしれませんが。関金山守は統合に向けて踏み切ったことで、新しい状況になりました。これは説明に出掛ける理由付けになると思います。「次を進めていきますよ。説明に行かせていただきますよ。」と、自分たちも努力していかなければいけない。かなり説明会も続けてきて、PTAも関わってきたので、もう1つ踏み込んだ段階に行かなければと思っています。
会長	次に土曜授業についてです。来年度の計画も出ているようですが、回数は5回で、去年と比べて増えなかったようですね。
教育長	教育委員会では月1回開催してはどうかと意見も出ましたが、様々な状況を判断する上で、他のスポーツクラブや大会との兼ね合いが問題になっていました。これについて、鳥取県も各競技団体・体育協会・中学校体育連盟などと小中学校課・体育保健課とが合同会議を開き、候補日を提示し、「もし土曜授業をされるならばこの中から選んでください」と1つのサンプルを出されました。今回はそれに従い回数を定めたところ、5回が限度かと判断しました。また、土曜授業を行うに当たり、苦しかったのは先生方の負担です。基本的な考え方として、土曜授業という仕事を命じることで、1週間の勤務時間が延びてしまうため負担が出てしまう。半日ずつの勤務で1日休むことも可能だと確認できましたので、今年は先生方のそういった思いも汲んで、半日ずつの勤務を組み、2.5日の代休として考えています。
委員	今年、小学校では3回土曜授業を行いました。長期休暇でも振替がなかなか取れない状況の中で、閉庁日を設けてもらえたのは助かりました。ただ、1日単位で振替を5回となると、5日間の夏季特休や年休も取らなければならない状況がある中で、仕事のことも考えるとしんどい。可能ならば半日単位にし、長期休暇の閉庁日を少なくしてもらえた方が、やりやすいのではないかと意見が出ていました。半日勤務はありがたいです。
委員	中学校も夏休みの間に5日間の夏季特休や、3日間の閉庁日がなかなか取れない状況です。夏休み自体も短くなっており、その間に各種大会や吹奏楽のコンクール、加えて出張もしなければならぬ。形式上は休みを取ったことにしているが、実際学校に行ってみると部活動をしている教員もいました。部活動も1週間丸々休む訳にならないし、中学校の場合は駅伝の大会を間近に控え、ほぼ毎日、夏休み前から9月後半まで駅伝練習を行っています。それに係る教員は複数名いるため、そういった教員は職務の内ではあるが、勤務時間とは異なるボランティアという把握でやっています。今回2.5日になったことはありがたいです。土曜日の午後からの部活動に、わずかではあるが部活動特別手当が付けられる。休みたい教員も1日半休み、また月曜日出勤となればずいぶん楽になると思います。日曜日しか休めない状況では、次の週のスタートでもうくたびれてしまっている。管理職であれば土日に出張扱いにならない会合などもあり、休まずに1週間が始まる。難しいところもあるが、半日となり若干配慮されていると思います。
会長	保護者の方はどうですか。
委員	去年の5月は大変だったという思いがあります。運動会・奉仕作業など様々なことが重なり、さらに土曜授業が加わったことで、土曜授業後に奉仕作業をし、夕方から中学校PTA連合会の総会があつて…。子どもたちはその日1日学校にいて、翌日も部活動などに参加したため、2週間ずっと休みが無かった。さすがに金曜日ごろになると、くたびれが出て授業中に寝ている生徒もいたようです。去年の失敗例も踏まえ今年是对応されると思うが、予定を組むのも大変だと感じ

	<p>ました。自分は小・中学校の地域学校委員として関わっているが、土曜授業は取って付けたような内容や、かなり無理されたと思う内容もあったという思いがあります。</p>
委員	<p>土曜授業の内容はどのように決定しているのですか。担当の先生方が地域の方と交渉して内容を決めるとなると、教師によって内容に大きな差が出てくるわけですね。そうすると、わざわざ土曜日に登校して良かったと思える授業ができていくのかどうか。先生方も、授業をして疲れてしまっていないか。土曜授業の取組はこれからステップアップしていくと思うが、内容にバラつきが出ないように協議していかなければ。また、土曜授業をやること自体に疲れてしまうことにならないようにしていかなければと思います。</p>
事務局	<p>倉吉市では土曜授業を小学校は3回、中学校は5回行いました。校長会の中では、中学校は年度当初から土曜授業に取り組んでも大丈夫ではないか、小学校は夏休みも含めて準備期間が必要ということだったので回数に違いが出ました。倉吉市は、教育課程に位置付けた土曜授業としており、教員が学校体制の中で行うこととして取り組んでいます。</p> <p>この土曜授業は、「ふるさと学習」を中心にするということであり、教科授業を行っても問題はないです。ふるさと学習は、今までも各教科や総合的な学習の中で、ふるさと探検や地域の方をゲストティーチャーとして迎えて行っていました。今度は土曜日にスライドさせて、地域の方により参加してもらいたいという発想です。また、初年度だったため、ゲストティーチャーをお願いする方を地域の中で見付けることや、人材確保も苦労しました。</p> <p>各学校の取組みとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西中：『倉吉風土記』の編集委員長をされた前校長で県の教育次長が説明。 ・久米中：校長がふるさとクイズを行い、クイズに用いられたくらよし風土記を紹介。 ・上小鴨小：あたご山でのウォークラリー、マラソン。 ・山守小：従来もボランティア活動として取り組んでいた建設業者の協力を得て、近くの川をせき止めてヤマメやイワナを放し、全校児童で魚のつかみ取りをした。地域や保護者の方も来られて、割箸を使った内臓の取り方を教えていたり、串に刺し炭火をおこして食べたりしていた。 ・西郷小：今まで平日にしていた開筵式を行い、地域の人にも来てもらった。 <p>学校や地域の特色を活かして行うことになるため、学校全体で取り組むところもあれば、各学年で取り組むところもあります。今まで行っていたことをスライドさせながら、しかし、せつかくの機会だから新しいことに取り組むこともできるのではないかと考えています。</p>
委員	<p>小学校では内容が微調整されたものもありました。</p> <p>関金小では、今まで平日に行っていた学習発表会などを土曜日にスライドしたことで、平日では来られなかった父親や家族が揃って来られたり、校内マラソン大会も保護者が応援に行けたなど、学校全部が皆を応援している形になっていました。実際、土曜日にスライドしたことで皆を巻き込んだ形はあったので、良かったのではないかと思います。ただ、子どもたちは初めてのことで「振替休日はあるのか」と言っていたこともありました。</p>
会長	<p>山口県では来年度は土曜授業の回数を増やすと言っていた。来年度は月2回に増やすと、テレビや放送で言っていたので、さすが安倍さんの地元だと…。</p>
委員	<p>土曜授業で体験活動などができるのは良いと思うが、地域の方は今年1年やってみて、土曜日に子どもたちが学校に行ってしまうから地域の行事に出てこなくなったなどと不満が出ていました。そうではなく、地域と学校が壁を取り払ってコラボレーションしていく、地域の行事を学校の子どもたちと一緒に出来るよう、協力できないかと思っています。知恵貸して、お金出して、人頼むよ、などのやり取りができれば良いと思います。</p>

会長	<p>「先生方は本当に楽しんでしているのか、嫌々していないだろうか。子どもにとっても土曜日に行くのも面倒ではないか、本当に土曜授業は必要なのか」と言う人もいます。先生方にも土曜日に出勤するからには、平日にゆとりができてほしい。土曜授業を行って、余計にくたびれてしまってはやはり問題だと思う。地域の授業を無理にしないで、土曜日に教科の授業をして、平日に1時間でも少なくなる方が良いのではないかと。何かメリットがないといけない。</p>
教育長	<p>西郷小は開塾式を土曜日にしたことで、地域の方も来やすくなり、その空いた時間を補充学習に充てても、早帰りしても構いませんよと言ってあります。時間の使い方は学校の中で決めてもらうようにしました。</p>
会長	<p>そのゆとりを徐々に活用できるようになっていかなければいけない。初年度は新聞記事に載ったりするから、余計に気負ってしまうけれど、地道に取り組んでもらいたい。「学校にゆとりができた」「子どもたちと担任の先生が話す時間が増えた」など、なにか1つでもプラスの面があってほしいと思います。</p>
事務局	<p>時間数の取り方について、土曜授業1回で3時間、年間で15時間増えるという考え方はしていません。1回で得られる3時間の余裕を、平日の授業時間を1つ減らす・早帰りできる・個別指導や教育相談に充てるなど、自由に使って良いことにしています。しかし、結果的にはそういったことができていない状況です。幸いにも26年度は臨時休校が1回もなく、年間総授業日数が確保できました。大雪や台風などにより休校になってしまうと、予定していた授業ができなくなり、授業時間の確保が非常に厳しい。時間短縮して7時間目までしてでも教育課程を終わらせなければならない。土曜授業によってできる時間的なゆとりが、そういったことの貯金になるといい。前半部分では少し厳しい状況でも、後半余裕を持てるようにしていけたらと思います。</p>
委員	<p>15時間を僅かだと思われる人もいるかもしれないが、非常に大きいです。今年インフルエンザが流行した時がありましたが、教務が「時間数に余裕はあるから大丈夫」と言ってくれたため、思い切って休ませることができ、早めに抑えることができました。今年スタートしたのが4月当初でした。4月当初、誰に何をするか一先ずの計画を立てて、走りながら内容を考えていました。来年度は、今の段階から5回をどのように使うのか、地域とどう結びついていくのか、または保護者の参加についてもPTAと相談できる若干の余裕があります。今年とはとにかくやってみようという動きだったため、予算の関係や、足りない面も見つかりました。来年は今年よりも中身のある、教員も自分たちのやりたいことをしっかり見つめながら出来る体制を組みたいと思います。また、そういったことが少しでも可能になると期待しています。</p>
委員	<p>土曜授業を通して、職員が「ふるさと」を意識する点ではすごく良かったと思います。ただ、新しい指導要領で「英語」や「道徳」が入ってきて、さらに特別支援教育の分野も、支援会議などが非常にきめ細かく頻繁に行われている現状で、学校内でも少し余裕を持ちながら新しいことを進められる工夫が必要になってきます。市全体でも今までたくさん伝統のある良い事業もありますが、いくつか減らし新たな事業を組むようにしていただきたいです。教職員がくたびれてしまわないように配慮してもらいつつ、土曜授業が遣り甲斐のあるものになれば良いと思っています。</p>
教育長	<p>教育委員会が次々と新しいことを思いついてすみません。1つ市教委が考えているのは、教育基本法が改正され、学校・家庭・地域が一体となって教育を進めていく。そして倉吉の地域に誇りと愛着を持つ子どもに育てたい。ではどうしたらいいのかという中で、地域学校委員会という形で学校評議員会とは違い、もう少し地域の方が学校運営にも意見を言えるようなシステムをこしらえました。そして具体的に結びつくものとして、土曜授業が出てきたと思います。そしてまた、菜の花プロジェクトを行ったため、先生方は大変だったろうと思っています。でも、菜の花にしても地域の人は本当に喜んでおられます。藤原委員さん、</p>

	倉吉の教育に関してどのように思われますか。
委員	<p>2月1日に「土曜授業推進フォーラム」を交流プラザで行いました。その時に東京都三鷹市の貝ノ瀬委員に来てもらい、話をして頂きました。土曜授業を行うのに根本になるのは「どんな子どもを育てたいか」という部分。そこをしっかりと考えていけば、自ずと土曜授業の方向性が決まってくると話されました。その話を聞いた時に、山根課長と県の小椋教育次長が、「倉吉のやっていくことは間違いじゃなかった」と語っておられたのを目にして、本当に倉吉のねらってきたことが、貝ノ瀬委員が話されていた言葉の中に表れていました。「地域とコラボレーションして、今の倉吉の子どもを育てていこう」という思いが、筋が通っている話だと感じたので、この思いを大切にしながら土曜授業を進めて頂けたらと思います。ただ、やはり先生方が土曜授業に対して、本当に子どもたちを育てていく実感があるものに変革してもらうことが大切です。やらされ感ばかりでは、負担感ばかり募ってしまうと感じます。</p>
会長	<p>1年目なので色々あったと思うが、2年目はより充実してもらいたい。普段、どちらかというと学校の要請に従って地域から色々な人を派遣していく形だが、そればかりしているともたない。おそらく駄目になるだろうと心配される人も結構あるわけです。両方からしなければいけない。学校も育ち、地域も地域の人も育つ。そういった視点が学校に欠けていないか、力を借りることばかり考えていないか、自分たちも地域の役に立つということを忘れてはいないか、と言われる人もいます。そのようなことを初めから言っていないといけないので、そのあたりは学校が追々気が付いてくるころだと思います。</p> <p>今日は意見交換・情報交換なりする会になったがその他ないでしょうか。</p>
事務局	<p>今週の土曜日に地域学校委員会の推進協議会を予定しています。その中で、次世代育成に学校がどのように関わっていくかについて考えております。今の振興基本計画を作った時から、双方向から携わることを入れ込んでいました。ただ、今まで学校を支援して頂く応援者を増やすといったことを中心に進めてきたため、その中で一緒になって考えていく次の段階に行けるのではないかと考えております。</p> <p>最後に倉吉教育振興計画作成手順案についてです。学校教育審議会で作って頂いた第1期教育振興基本計画が、平成27年度で5年目の最終年になります。それにあたり、来年度中には28年度からの次期5年間の基本計画を作る予定にしています。作業日程として教育委員会の中で少しずつ形を作っていこうと考えています。平成26年9月から平成27年9月までの1年間で、学校教育課として審議会・校長会・教頭会・教職員の意見などを得ながら作っていきたくと考えています。また次回には、その方向性や中身について御意見を頂くことになると思いますので、よろしく願います。また、この作業日程を見てもらい、御意見がありましたら本日頂戴できたらと思います。</p>
教育長	教育関係団体としてPTAはどの辺りから参画してもらうのか。
事務局	もう少し早い段階から。各審議会からの答申までの間に参画できないか。
教育長	<p>どうでしょうか。PTAの方に投げかけてみてもらえませんか。</p> <p>学校が地域の方からボランティア活動をしてもらっています。学校支援ボランティアに登録しておられるのは、県は6,000名。そのうち倉吉は1,800名。ちょっと自慢に思っています。それだけ学校は助けてもらっている。先日校長会で話したが、その恩をどう返していくかが課題だなと思っています。</p>
会長	難しいことだが、そういったことにも目を向けなければいけない。
4 閉会	